

2020年10月の金融経済概況のポイント

■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、前回の「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、経済活動が徐々に再開するもとの、持ち直しつつある」との判断を維持しました。
- 需要項目ごとの判断も、前回、個人消費と観光について上方修正しましたが、今月は、公共投資、住宅投資を含め、変更はありません。
- 雇用や金融面についても、前回と同じ判断です。労働需給は、弱めの動きがみられており、金融面は、預金、貸出とも前年より増加しています。

■個人消費の動向

- 大型店売上高は、9月、8か月振りに前年を下回りました。前年が消費税増税前の駆け込みで水準が高かったことの反動が出たかたちです。衣料品の販売が引き続き低調なほか、日用品の需要にも落ち着きが見られるものの、食料品は、増勢は鈍化しつつも堅調を維持しています。また、家電販売も、全体では前年の消費税増税の影響等から、白物を中心に前年を下回りましたが、エアコンが高単価商品を中心に引き続き好調に推移しています。
- 9月の新車登録台数は、軽自動車、除く軽、合計とも、前年を下回りました。合計は、昨年10月以降、12か月連続のマイナスです。こちらも9月は、前年の駆け込みの反動が出た格好となりました。もっとも、自動車ディーラーの店頭では、次第に客足が戻ってきており、新車投入や販売促進策の効果もあって、水準は低いながらも販売地合いは徐々に持ち直しています。

■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、9月、感染症の影響が引き続きみられるも、全ての空港で前年を大きく下回り、全体でも前年を大きく下回りました。8か月連続の前年割れです。国内旅行需要の緩やかな回復を受け、一頃に比べれば、前年比減少幅は縮小してきています。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、9月は7か月連続で定期便、国際チャーター便ともにゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、9月、前年比▲2～▲3割程度の減少となりましたが、どうみん割やGoToトラベル事業の効果から、道内客を中心に持ち直しの動きがみられました。旭川市内のホテル客室稼働率も、9月、前年を下回りましたが、5月を底に、徐々に持ち直しています。
- 各地観光施設の入込みは、9月、ウェイトの大きい旭山動物園、層雲峡地区、ウトロ温泉、博物館網走監獄、利尻・礼文フェリーとも前年を下回ったことから、合計でも前年を下回りました。ただ、いずれの施設も、一頃に比べれば、入込客数は徐々に回復しており、前年比減少幅は縮小しています。

■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、9月、宗谷で前年を下回りましたが、上川、オホーツクが前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。2020年4月以降、9月までの累計では、宗谷、オホーツクが前年を大きく上回ったほか、上川も前年を上回ったことから、全体でも前年を上回っています。

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、8月、分譲が前年を下回ったものの、持家、貸家が前年を上回ったことから、全体でも前年を多少上回りました。

■雇用

- 雇用状況は、弱めの動きがみられています。有効求人倍率は、8月、旭川、稚内、北見、網走の全てで前年を下回りました。旭川は引き続き1倍を下回ったものの、稚内、北見、網走が1倍超えとなったことから、全体では2か月連続の1倍超えとなりました。新規求人数は、8月、網走で前年を上回ったものの、旭川、稚内、北見で前年を下回り、この結果、4つの職業安定所を合計した新規求人数でも、6か月連続で前年を1割以上下回る減少となりました。

■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、9月、前年を上回りました。9月まで19か月連続で前年を上回っています。

■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上でのポイントとしては、①経済活動の再開が次第に進む中で、政策効果も相まって、観光、消費がどのようなペースで持ち直していくのかを、引き続き、注意深く見て参りたいと思います。また、②再開後も当面は低水準の経済活動が続くとした場合に、雇用、所得、企業収益や設備投資計画にどのような影響が生じるのか、③公共工事について、人手不足の問題を抱える当地の建設業者がこれまでどおり受注を続けられるかどうか、といった面にも注意を払いたいと思います。

以 上